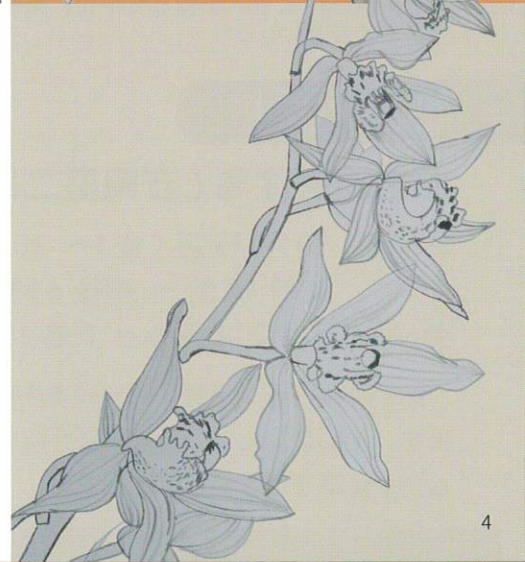
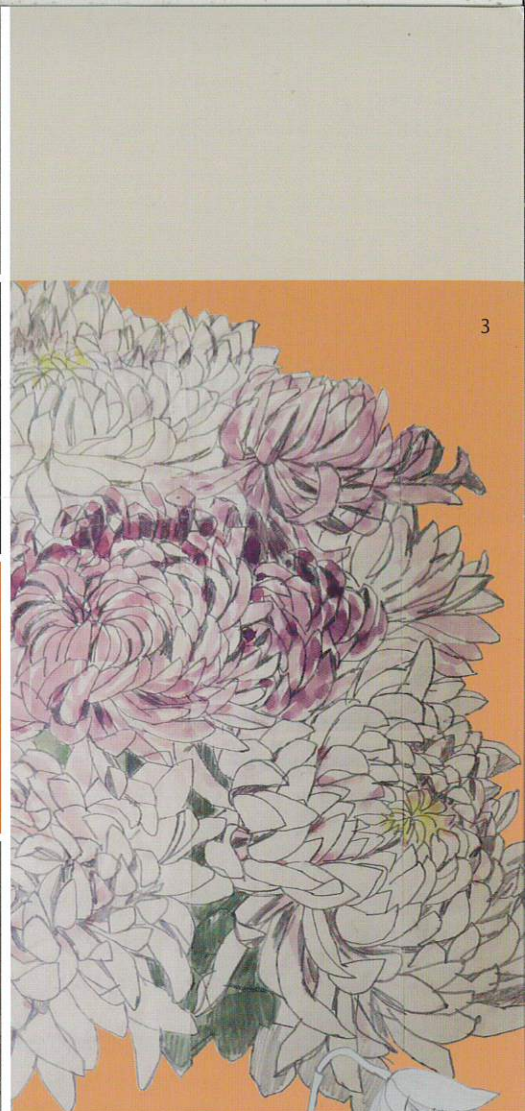
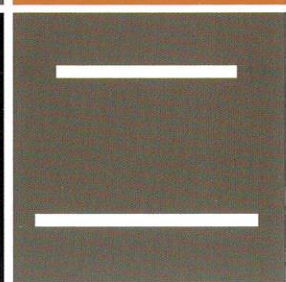
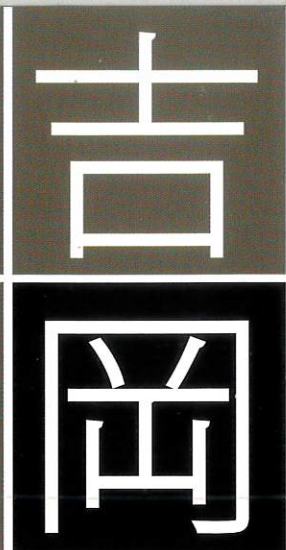


吉岡 素描展



2021
9/23
 (祝・木)
 |
11/3
 (祝・水)

1 胡蝶蘭 (部分) / 2 アネモネ (部分)
 3 菊 (部分) / 4 シンビジウム

時間 午前9時 - 午後5時
 会期中の休館日 月曜日、9月24日(金)

東大和市立郷土博物館 東京都東大和市奈良橋 1-260-2

TEL 042-567-4800 FAX 042-567-4166

〈交通のご案内〉

- 西武拝島線 東大和市駅より
 イオンモール行(西武バス)で「八幡神社」下車徒歩2分、または青梅車庫行(都営バス)で「八幡神社前」下車徒歩2分、東村山駅行(西武バス)で「奈良橋」下車徒歩7分
- ちよこバス(市内循環バス)で
 多摩モノレール 上北台駅より外廻り乗車 または、西武多摩湖線武蔵大和駅より内廻り乗車
 「郷土博物館入口」下車徒歩2分(本数が少ないのでご注意ください)



吉岡堅二素描展

9月23日(祝・木) — 11月3日(祝・水)

会場 東大和市立郷土博物館 1階企画展示室

時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日、9月24日(金)



吉岡 堅二
Kenji YOSHIOKA
(1906 - 1990)

昭和の前衛日本画を代表する吉岡堅二の展覧会を開催します。

吉岡堅二は明治39年に日本画家・吉岡華堂の次男として生まれました。昭和19年に大和村(現在の東大和市)へ転居。亡くなるまでの約半世紀をこの地で過ごし、創作活動にはげみました。堅二は、伝統的な日本画の技法を踏襲しつつも、西洋画の要素を取り入れた新しい表現を模索し続けました。その礎となっているのは、修業時代に培った狩野派仕込みの描画力と、生まれ持った鋭い観察眼です。

鳥の画家として名を馳せた堅二ですが、その作品には草花も多く描かれています。今回の展覧会では、本画制作を目的に描かれた植物の素描や、昭和初期に描かれた初公開の素描を中心に、草花が描かれた草稿(下図)や日本画の小作品もあわせてご紹介いたします。

制作時期によって異なる画材や、線の表現の違いにも注目です。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手指の消毒・マスクの着用にご協力をお願いします。

※感染状況により、予告なく中止、または会期が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

関連イベント

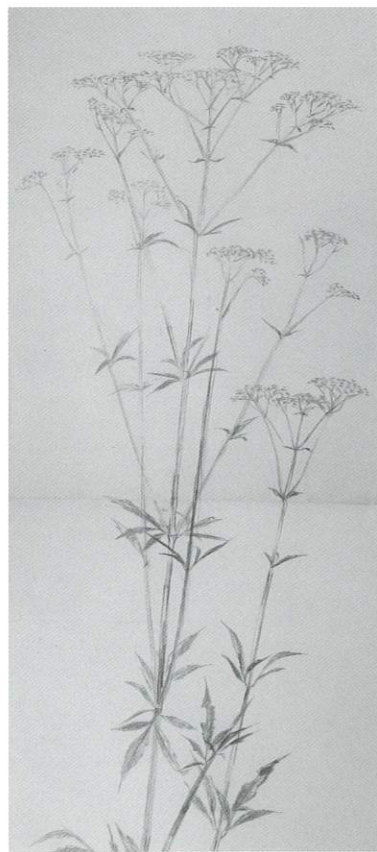
旧吉岡家住宅(吉岡堅二旧宅)の公開

日時: 10月29日(金)～10月31日(日)

午前10時～午後4時

会場: 東大和市清水3丁目779番地

国の登録有形文化財「旧吉岡家住宅」として保存されている、吉岡堅二の旧宅を公開します。生前使用していたまま残されているアトリエ、武蔵野の伝統的な農家の家屋を改築した主屋等をご覧ください。



オミナエシ / 紙に鉛筆 / 昭和初期



ムギ / 紙に鉛筆、淡彩 / 1929(昭和4)年



野草 / 紙に鉛筆、淡彩 / 1929(昭和4)年



桐の花 / 紙に鉛筆 / 1935(昭和10)年



ミズバショウ(部分) / スケッチブックに淡彩 / 昭和20年頃